

令和2年不動産鑑定士試験論文式試験

会計学(問題) { 満点100点
時間2時間(10時~12時) }

[注意事項]

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて3ページ、解答用紙は表紙を含めて3ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

* この問題は、令和元年9月1日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

問題 1 (50 点)

有形固定資産と減価償却について、次の各問に答えなさい。

(1) 次の文章は、有形固定資産と減価償却について説明したものである。次の空欄 (ア) から (キ) までに入る適切な語句を答えなさい。

有形固定資産とは、(ア) 形態を持ち、1 年を超える長期にわたって使用される事業用の資産をいう。企業会計原則では、建物、構築物、機械装置、船舶、車両運搬具、工具器具備品、土地、建設仮勘定などが例示されており、その取得原価を当該固定資産の (イ) にわたり、一定の減価償却方法によって各事業年度に (ウ) しなければならないとしている。

有形固定資産は、その性質によって大きく 3 つのタイプに分類することができる。使用や時間の経過とともに価値が減少していく (エ)、使用や時間の経過とともに価値が減少しない (オ)、そして鉱山・油井・山林などのように採掘・採取・伐採などによって数量的に減少していく (カ) がある。このうち、減価償却の対象となるのが (エ) である。

減価償却の方法には、期間を配分基準とする方法として定額法、定率法、級数法があり、また、生産または用益の提供の度合いを配分基準とする (キ) がある。なお (カ) の場合、減価償却ではなく減耗償却という償却方法が用いられることになっているが、実際の手続きとしては (キ) が用いられている。

(2) 減価償却の自己金融効果について、簡単な数値例を示しながら説明しなさい。

(3) 3 月決算企業の A 社は、202X 年 4 月 1 日に事務用備品 100 万円を購入した。備品の耐用年数は 5 年であり、A 社はこの備品について、200 % 定率法を採用することにした。3 年目の減価償却額はいくらとなるか計算しなさい。

問題2 (50点)

次の文章は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」からの抜粋である。これに関連して、以下の問いに答えなさい。

4. 「リース取引」とは、特定の物件の所有者たる貸手（レッサー）が、当該物件の借手（レシー）に対し、合意された期間（以下「リース期間」という。）にわたりこれを する権利を与え、借手は、合意された使用料（以下「リース料」という。）を貸手に支払う取引をいう。

5. 「ファイナンス・リース取引」とは、リース契約に基づくリース期間の中途において当該契約を することができないリース取引又は これに準ずるリース取引で、^a借手が、当該契約に基づき使用する物件（以下「リース物件」という。）からもたらされる を に享受することができ、かつ、^c当該リース物件の使用に伴って生じる を に負担することとなるリース取引をいう。

(中略)

9. ファイナンス・リース取引については、通常の に係る方法に準じて会計処理を行う。

(中略)

15. オペレーティング・リース取引については、通常の に係る方法に準じて会計処理を行う。

- (1) 空欄 から にあてはまる適切な語を答えなさい。
- (2) 下線部 a から c について、それぞれを具体的に説明しなさい。
- (3) リース資産およびリース債務の計上額の算定方法について説明しなさい。
- (4) リース資産の減価償却費の算定方法を、所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引のそれぞれについて説明しなさい。
- (5) リース取引を割賦売買取引との類似性の観点から実質的な所有権の移転とみなすのではなく、リース取引の本質を財産使用权の移転とみなした場合、リース資産を貸借対照表に計上すべきか否か。所有権移転ファイナンス・リース取引、所有権移転外ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引のそれぞれについて、計上の是非の理由もあわせて説明しなさい。

(以下余白)

